

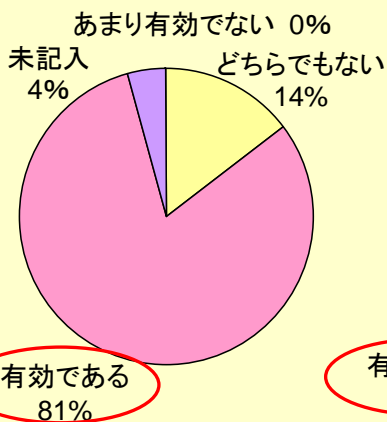


トランスサイレチン(プレアルブミン)の 検査報告が早くないました!

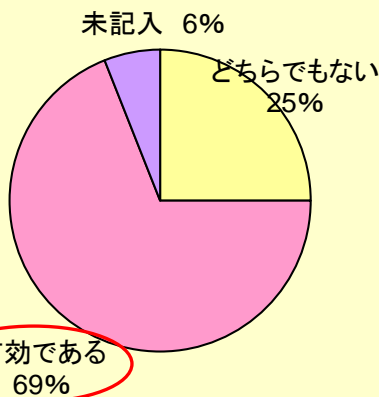
トランスサイレチン検査は外注検査のため、これまで結果報告に1週間ほどかかっていました。しかし**迅速に栄養評価を行うための検査である**という本来の目的を最大限に活かせるよう、迅速な結果報告ができるような取り組みを現在行っています!

トランスサイレチン検査について院内でどのように認識されているか把握するため、常勤医師を対象としたトランスサイレチン(TTR)についてのアンケートを実施しました (対象医師96人/回収率50.0%)

TTRは栄養評価上で有効な検査か?



TTRはRTPの一つとして有用な指標か?

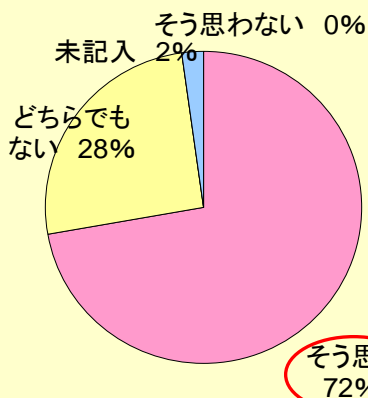


◎トランスサイレチン(プレアルブミン)とは?

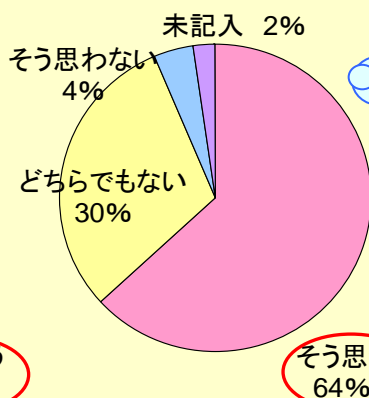
→主に肝臓で合成される血清蛋白の一つで、以前はプレアルブミンの名称で呼ばれていました。

半減期が約2日と短く代謝回転が速いため、レチノール結合蛋白などとあわせてラピッド・ターンオーバー・プロテイン(RTP)とも呼ばれ、短期的な栄養評価の指標の一つとされています。

TTRの結果が早く判明することは日常臨床に役立つか?



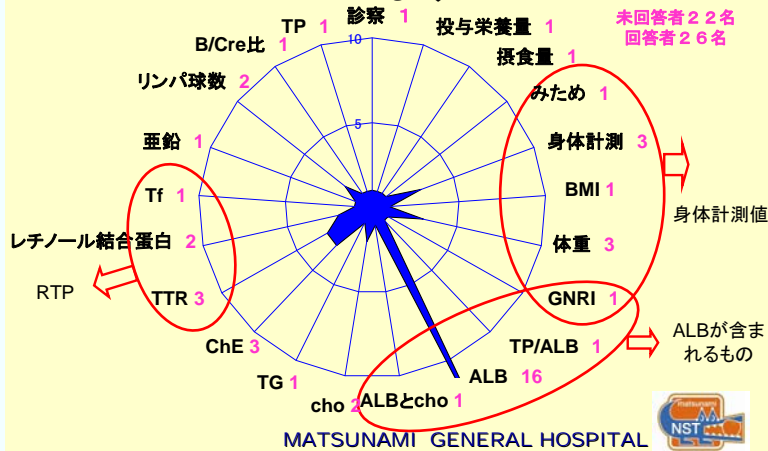
TTRの結果が早く判明するのなら今まで以上に検査を行いたいのか?



多くの医師がトランスサイレチン検査は栄養評価に有効だと思っており、検査結果が迅速に報告されることが必要だと感じていることが分かります!



栄養評価のモニタリングは何を指標にしていますか？



《アンケートに寄せられた質問と返答》

◎検査にかかるコストはどれくらいか？
 トランスサイレチン (TTR) →115点
 レチノール結合蛋白 (RBP) →140点

◎月何件までなどのしぼりや測定条件はあるか？
 上限はありませんが、適応症例は栄養不良の評価が必要な症例〔手術後、食事摂取不良、栄養失調、重症消耗性疾患（廃用症候群）など〕となります。

今回のアンケートの結果、トランスサイレチン検査結果の迅速な報告の必要性が明確になりました。
 そこでトランスサイレチンの結果報告をFAX対応とし、**2-3日で報告が可能**になりました。今まで以上に迅速に栄養評価ができるようになりましたのでぜひともご活用ください！
 アンケートのご協力ありがとうございました。

◆トランスサイレチンの名称について

トランスサイレチンとプレアルブミンは同じものです。正式名称はトランスサイレチンですが外注先の結果報告がプレアルブミンの名称でしか報告できないため、オーダーリングではプレアルブミン (TTR) という表記になっています。

トランスサイレチンは術後には低下がみられますが、1週間たっても戻らない場合はなんらかの感染などを疑います。

トランスサイレチンの採血のタイミングは輸液や栄養療法変更直前と変更後、手術直前と術後3日目に検査されることをおすすめします。